

チャトゲコナジラミの生態と防除対策

1. 特徴

- ・本虫は、増殖力が非常に高く、対応が遅れると急速に寄生密度が高くなる。
- ・チャのほかサザンカ、サカキ、ヒサカキなどツバキ類に寄生する。

2. 形態および生態

- ・成虫は雌 1.3 mm、雄は雌よりやや小さい。羽化後の成虫の寿命は4日間である。
- ・卵は 0.2 mmで勾玉状。孵化幼虫は淡黄色で、定着後は黒色の楕円形で周囲に白い口物質を持つ。終齢(4齢)幼虫は約 1 mmで、肉眼で観察可能である。
- ・卵→幼虫(1~4齢)→成虫のサイクルで成長する。年3~4回発生する。
- ・おもに3~4齢幼虫で越冬する。越冬幼虫は翌春に羽化する。



卵(葉裏に産卵)



幼虫(葉裏に群生)



雌成虫(体長約 1.3mm)

3. 被害

- ・幼虫が排泄する甘露がすす病を誘発する。
- ・成虫および幼虫が新芽に寄生して吸汁加害する。
- ・春の成虫発生が一番茶の収穫時と同じ頃と思われ、収穫時に大量の成虫が飛翔し、収穫物に成虫が混入する。また、茶園内で飛翔している成虫が作業者の口に入るなど、作業時に不快となる(多い場合はマスクや防塵メガネの着用が必要)。



新葉に群生する成虫

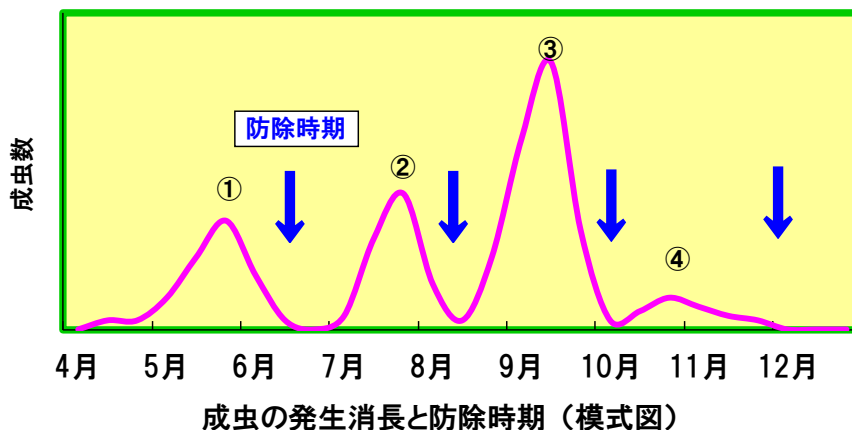


幼虫の排泄物によるすす病



すす病の発生園

4. 発生消長



5. 発見のポイント

- ・成虫は新芽に群がるので、成虫の発見のためには新芽をよく観察する。発生数が多くなると茶株を揺することで飛び立つので確認できる。茶園内のクモの巣にかかっていることもあるので、注意して観察する。
- ・成虫は黄色に誘引されるので、黄色粘着トラップを園地や工場内に設置することにより、侵入の確認ができる。
- ・幼虫は古葉や新葉の葉裏に群生している。卵および若齢幼虫の確認にはルーペが必要であるが、老齢幼虫(3~4齢)は肉眼での確認が可能である。
- ・成園で幼虫の寄生を確認するには、茶園周縁のすそ部の古葉を重点的に観察する。
- ・すす病が発生している場合、幼虫が高密度で寄生している可能性が高い。

6. 侵入防止対策および侵入初期の対策

【侵入防止対策】

- ・発生地域からの苗木の導入をしない。未発生地域の苗木でも定植前に寄生の有無を確認する。
- ・発生地域の茶園に立ち入らない(特に成虫飛翔期)。また、葉や枝を持ち帰らない。
- ・やむを得ず発生県から苗を導入する場合は、未発生地域で育成された苗木であり、チャトゲコナジラムの防除がされていることを確認すること。さらに、定植前に寄生の有無を確認し、定植後はマシン油乳剤により越冬幼虫の防除を必ず行う。定植時に切り落とした枝葉にも幼虫が寄生していることがあるので、枝葉は適切な処理をする。

【侵入初期】

- ・発生を確認したら直ちに防除する。急速に寄生密度が高くなるため、防除が遅れると被害が拡大するおそれがある。
- ・発生初期は、地域での一斉防除が効果的である。深刈りせん枝等で発生園の葉を完全に除去し、薬剤の散布を行うなど、発生時期と発生場所に応じて適切な防除を行う(発生消長図参照)。

茶のチャトゲコナジラムに登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍数	散布量 ($\mu\text{g}/10\text{a}$)	使用時期	本剤の 使用回数
アプロード水和剤	1,000 倍	—	摘採 14 日前まで	2 回以内
アプロードエースフロアブル	1,000 倍	200~400	摘採 21 日前まで	1 回
ダントツ水溶剤	2,000 倍	200~400	摘採 7 日前まで	1 回
ハチハチ乳剤	1,000 倍	200~400	摘採 14 日前まで	1 回
ハチハチフロアブル	1,000 倍	200~400	摘採 14 日前まで	1 回
ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	200~400	摘採 7 日前まで	1 回
ランネット45DF	1,000 倍	200~400	摘採 21 日前まで	2 回以内
コテツフロアブル	2,000 倍	200~400	摘採 7 日前まで	2 回以内
コルト顆粒水和剤	3,000 倍	200~400	摘採 7 日前まで	2 回以内
ディアナ SC	2,500~5,000 倍	200~400	摘採 7 日前まで	1 回
トモノール S	50~100 倍	200~400	10~3 月	—
	100~150 倍	200~400	5~9 月	—
ラビサンスプレー	75 倍	200~400	10~3 月	—
	100~150 倍	200~400	5~9 月	—

参考: チャトゲコナジラム研究推進連絡会作成「チャの新害虫チャトゲコナジラムの防除マニュアル」(農水省の HP から入手可能。農水省>消費・安全>植物防疫 病害虫防除に関する情報>技術情報等)

本害虫を発見したら、最寄りのJA、農業改良普及センター、茶業試験場、農業技術防除センターに早急に連絡してください